

# 生活保護おびえる日々

## 2013 参院選

### @ 福井

生活保護費の受給日を翌日に控えて、福井市の男性(42)は「今日は何とか乗り切れそうです」とつぶやいた。財布に74円しか残っていない。

今年初めまで長距離トラックの運転手だった。会社から積載超過を何度も強いられ、違反点が重なって運転免許を取り消されたのと同時にクビを切られた。月収二十数万円を失ってたちまち生活に窮し

## 受給前日、財布に74円



男性のアパートにはインスタント食品が並ぶ。最近、政治についての本を読む＝福井市

た。

月9万円の保護費から、4畳半一部屋のアパート代2万6千円と光熱費2万5千円とを引けば、生活費は4万円足らず。インスタントのカレーやラーメンで日々をしのいでいる。

男性が福井市役所に赴いたのは2月末。受給が決まる4月初めまでに7、8回足を運んだ。男性によると、担当者からは、自分を解雇した会社に援助をせよという働きかけることを提案され、18年前に離婚した元妻や数年前から疎遠になっている母親からも支援を受けるよう求められた。再婚している元妻に市が連絡したとも聞かされた。

先の国会では生活保護法の改定案が話し合われた。保護の決定にあたり、仕送りが必要ないかどうかを家族に確認する手続きを強化する内容だ。福井弁護士会は「親族間のおつれきを恐れて申請をあ

## 疎遠な親族に頼るよう求められ

きりめさせる萎縮効果がある」となると廃案を求める声明を出した。窓口で追い返す「水際作戦」が各地で問題化しているのに、「そうした違法行為を後押しする」とも強く批判した。

安倍晋三首相への問責決議のあたりで参議院で廃案になったが、生活費分を2015年4月までに最大10%減らす政策が8月から始まる。

生活保護を受ける県内の人数は、5年前の2384人から3915人へ増えた。中でも働き盛りの世代は166人から631人と4倍近くに急増している。

男性は、高校卒業後に就いた運転手の仕事をふり返るとき、うれしそうに語る。「一般道を丸一日走り続けるのはきつかったが、車載無線でつながった全国のドライバーとの会話は無性に楽しかった。

いまは日々、後ろめたさにさいなまれ、繰り返される生活保護パッシングにおびえている。端正な字の履歴書を手元に「腰を痛めて中断した求職活動を早く再開したい」と話す。月一回、300円のウイスキーミニボトルをさかな無しで飲むのが、唯一の楽しみだといふ。

(下地 文)